

(9) 医療施設

ア 医療施設

① サービス状況

本市では、休日昼間及び平日夜間においても医療が受けられるよう、急病患者に対して、応急的な診療（初期救急医療）を行うための長門市応急診療所を平成25年10月から長門総合病院の隣に設置しています。

この診療所は、休日の昼間及び平日の夜間に、突然の発熱や腹痛など比較的軽症な患者を診察し、必要に応じて二次救急医療機関に繋ぐ役割を果たします。

応急診療所の診療については、長門市医師会及び山口県立総合医療センター、山口大学附属病院の医師が交代で担当しています。原則として診療科目は内科、小児科となりますが、診察する医師の専門科目であれば、初期対応ができる場合があります。

② 建物状況

長門市応急診療所は、平成25年10月に開所した新しい施設であるため、耐震性も問題なく、施設・設備・備品ともに新しく、当分の間は現状の機能が保たれます。

◆ 主な建物一覧

No	建物名	併設施設	建設年度	構造	地上	地下	施設延床面積(m ²)	耐震化実施状況	
								耐震診断	耐震改修
1	長門市応急診療所	あり	H25	RC	2	—	978	実施済み	実施済み

③ 管理運営状況

応急診療所の診療科目は、原則内科と小児科であり、診療時間は、基本的に平日夜間が19時～22時、日曜日・祝日・年末年始を含めた休日の昼間が9時～12時と13時～17時となっています。

なお、土曜日の診療と日曜日・祝日・年末年始の夜間の診療はありません。

◆ 診療日及び診療時間

区分	診療科	診療日	診療時間
休日昼間	内科 小児科	日曜日・祝日 年末年始 (12月30日～1月3日)	9時～12時 (受付は11時30分まで) 13時～17時 (受付は16時30分まで)
平日夜間		月曜日～金曜日	19時～22時 (受付は21時30分まで)

④利用状況

長門市応急診療所の受診者は、平成25年度では、10月開所以来延べ1,351人となっており、1日当たりの平均では休日昼間が27.3人、平日夜間が2.7人の利用となりました。

年齢別では、14歳以下の小児が43%、15歳以上の受診者が57%の利用となっております。

長門市応急診療所の受診状況(H25年10月6日～H26年3月31日)

(単位:人)

		平成25年10月		11月		12月		平成26年1月		2月		3月		計			
		休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	合計	
診療日数		5	18	6	20	8	19	8	19	5	19	6	20	38	115	153	
受診者数	計	87	39	102	47	214	34	286	47	123	57	226	89	1038	313	1351	
	1日当たり	17.4	2.2	17	2.4	26.8	1.8	35.8	2.5	24.6	3.0	37.7	4.5	27.3	2.7	8.8	
年齢	小児	35	11	35	11	108	15	111	15	51	15	130	46	470	113	583	
	%	40.2%	28.2%	34.3%	23.4%	50.5%	44.1%	38.8%	31.9%	41.5%	26.3%	57.5%	51.7%	45.3%	36.1%	43.2%	
	再	3歳未満	6	4	0	0	32	2	18	2	2	2	1	0	59	10	69
	%	17.1%	36.4%	0.0%	0.0%	29.6%	13.3%	16.2%	13.3%	3.9%	13.3%	0.8%	0.0%	12.6%	8.8%	11.8%	
	一般	52	28	67	36	106	19	175	32	72	42	96	43	568	200	768	

⑤コスト状況

本施設は平成25年10月開所のため、年間コストについては算出することはできませんが、当分の間、大規模修繕、バリアフリー、耐震化などの費用が発生することはありません。しかし今後、施設利用の需要が高まった場合、維持管理経費や設備のメンテナンス費用等が増加してくると予測されます。

⑥まとめ

本市では、これまで開業医の在宅当番制で休日昼間の診療体制を確保してきましたが、本施設の整備により、休日等の昼間および平日夜間診療や二次救急医療機関に繋ぐ体制が整いました。

建物については平成25年の建設であり、耐震性、老朽化ともに問題はありません。

今後は、地域の医療崩壊の予防と医療機能の向上を図るため、地域の中核病院などの二次救急医療機関の負担を軽減して高度医療に特化できるよう、初期救急医療機能を集約化する長門市応急診療所の役割が期待されます。